資料No. 4

令和2年度森林づくり推進支援金の検証・評価

1 令和２年度森林づくり推進支援金の検証・評価について　１Ｐ

2 令和２年度森林づくり推進支援金事業　実績一覧表　２Ｐ

3 市町村別　森林づくり推進支援金事業総括書

（1）　小諸市　3P

（2）　佐久市　5P

（3）　小海町　7P

（4）　佐久穂町　9P

（5）　川上村　13P

（6）　南牧村　17P

（7）　南相木村　19P

（8）　北相木村　22P

（9）　軽井沢町　28P

（10）御代田町　30P

（11）立科町　32P

1 令和2年度森林づくり推進支援金の検証・評価について

○令和2年度以降の森林づくり推進支援金は、交付対象事業の公表、事業実施後の検証、評価及びその内容の公表を市町村が自ら行うこととしています。

○市町村は事業実施後、「森林づくり推進支援金事業総括書」により事業の検証及び評価を行い、地域振興局を通じて「みんなで支える森林づくり地域会議」の意見を聴いた後にこれを公表します。

○令和2年度事業の内訳は別紙一覧表のとおりです。

○令和2年度の「森林づくり推進支援金事業総括書」については、市町村が公表した後、県のHPにおいて一括掲載する予定です。

■森林づくり推進支援金交付要綱（抜粋）

（検証、評価及び公表）

第12　市町村長は、森林づくり推進支援金事業総括書（以下「総括書」という。）により当該交付の対象となった事業の検証及び評価を行い、その内容を地域振興局長に報告するとともに、公表しなければならない。

■森林づくり推進支援金事業実施要領（抜粋）

（事業内容の検証、評価及び公表等）

第11　要綱第12 に規定する森林づくり推進支援金事業総括書（以下「総括書」という。）は、別記様式第15 号によるものとする。

２ 総括書の提出は、要綱第9に規定する森林づくり推進支援金事業実績報告書の提出と同時に行うものとする。

３ 地域振興局長は、総括書を別に定める「みんなで支える森林づくり地域会議」に報告し、意見を聴いた上で、その結果を市町村に報告するものとする。

４ 市町村長は、前項の報告を踏まえ、事業の検証及び評価の結果を公表するものとする。

（別記様式第１６号附表）

令和２年度　森林づくり推進支援金事業　実績一覧表

佐久地域振興局

市町村名	No.	事業項目番号	事業名	事業費（千円）	負担内訳 支援金（千円）	負担内訳 その他（千円）	備考
小諸市	1	1	小諸市松くい虫被害防除特殊伐採補助事業	1,263	1,255	8	
	計		1　件	1,263	1,255	8	
佐久市	1	1	松くい虫防除事業　伐倒・くん蒸業務	3,652	2,825	827	
	計		1　件	3,652	2,825	827	
小海町	1	3	緩衝帯整備事業	973.5	890	83.5	
	計		1　件	973.5	890	83.5	
佐久穂町	1	1	松くい虫被害枯損木発見等立木調査業務	990	900	90	
	2	1	松くい虫被害防除対策業務	434.5	218	216.5	
	計		2　件	1,424.5	1,118	307	
川上村	1	3	緩衝帯整備事業	935	935	0	
	2	3	カラマツ木育事業	180.0	142	38.0	
	計		2　件	1,115	1,077	38.0	
南牧村	1	3	緩衝帯整備事業	5,000	701	4,299	
	計		1　件	5,000	701	4,299	
南相木村	1	2	木資源活用推進事業	660	535	125	
	計		1　件	660	535	125	
北相木村	1	2	木質化推進事業（木製コサージュ等制作）	124.3	118	6.3	
	2	2	木質化推進事業（博物館カラマツテーブル制作）	352	230	122	
	2	2	木質化推進事業（木製パーティション制作）	176	170	6	
	計		2　件	652.3	518	134.3	
軽井沢町	1	3	緩衝帯整備事業	1,091.2	905	186.2	
	計		1　件	1,091.2	905	186.2	
御代田町	1	1	御代田町松くい虫被害防除対策事業	795.3	691	104.3	
	計		1　件	795.3	691	104.3	
立科町	1	1	立科町松くい虫防除伐採補助金	598	598	0	
	2	2	県産材を用いたベンチの設置	176	153	23	
	計		1　件	774	751	23	
合　計			14　件	17,401	11,266	6,135	

事業項目	1	みんなの暮らしを守る森林づくり	7,733	6,487	1,246
	2	木を活かした力強い産業づくり	1,488	1,206	282
	3	森林を支える豊かな地域づくり	8,180	3,573	4,607
	合　計		17,401	11,266	6,135

（別記様式第１５号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小　諸　市

No.	事　業　項　目	事　業　名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	小諸市松くい虫被害防除特殊伐採補助事業
事　業　費　　1,263,000 円　（うち支援金：1,255,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

先端地域を中心に松くい被害木が確認できる。特に、建物、墓地及び道路付近の赤松が被害に遭っている。

（２）本事業の目的

（(1)の課題への対応方向について記載）

平成 21 年度より当事業を活用することで土地所有者が実施する枯損木の駆除に対して補助制度を設け、市全体の松くい虫防除対策の促進を図ってきた。

平成 31 年度(令和元年度)の当事業実績は、件数 45 件、処理本数 115 本、総事業費 478 万円に及び、松くい虫被害の防除対策という事業の目的はもとより、二次被害の防止効果や土地所有者に対する所有地管理意識向上の啓発効果が期待できる。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所：市内全域

（２）対 象 者：松くい虫被害による枯損木が存する市内の宅地または墓地等を所有または管理する者。

（３）実施方法：松くい虫被害木の伐倒処理を業者に委託する費用に対し補助を行った。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

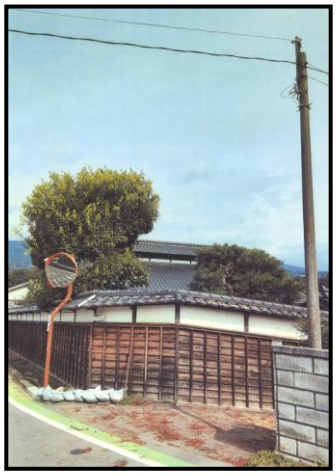
各年度　処理本数 400 本　補助金予算額 4,000,000 円

②令和 2 年度実績

処理本数 80 本　補助金額 1,263,000 円

伐採前

伐採後



事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果
松くい被害木の倒木による二次被害防止。

（２）継続性
松くい被害木が存在する限り、継続する必要性あり。

（３）普及性
引続き補助事業を継続することで市内の美しい松林景観の造成を図る。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況
当事業では、松くい被害枯損木の処理に対して補助制度を設けることで、12 月 4 日時点で 42 件、80 本に及ぶ処理を実施した。このことは、台風シーズンを迎える前に松くい被害木を早期に伐倒処理することにより、倒木による二次的被害を未然に防止する効果が絶大であった。また、土地所有者に対する啓発効果もあり、所有地管理意識向上が図られた。さらには、511 万円を超える総事業費が管内の林業事業体にもたらす効果（雇用等）も事業評価の一端である。

（２）課題
アカマツの多い千曲川以西の地域、東御市境や佐久市境で被害が甚大になっており、市内にも被害地が拡大し、その先端も標高 1000m地点に迫っている。被害木が広範囲に広がっているため、全てを駆除することが困難な状況である。

（３）今後の取組方向
☑事業を現行どおり継続する
（今後の事業実施見込について記載）
予算規模は縮小方向となるが、被害木の倒木による二次的被害を未然に防止する効果はもとより、土地所有者に対する所有地管理意識向上の啓発を図る。目的からしても、来年度以降も本事業を継続することで、市内の美しい松林景観の造成に寄与したいと考える。

□事業内容を見直して継続する
（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない
（継続しない理由を記載）

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	佐久市

№.	事　業　項　目	事　　業　　名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫防除事業　伐倒・くん蒸業務
事　業　費　３，６５２，０００円　（うち支援金：２，８２５，０００円）		

事　業　目　的

（１）地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害が拡大しており、急激な被害拡大の防止が課題となっている。

（２）本事業の目的

国の補助対象とならない箇所につき、被害木の伐倒・くん蒸を実施することで被害の拡大を防ぐ。

事　業　内　容

（１）実施場所　佐久市全域

（２）対象者　　市民等

（３）実施方法　被害木の伐倒・くん蒸

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成３０年度～令和４年度）

2,714 ㎥（佐久市内全域）

②令和２年度実績

345 ㎥（佐久市内全域、うち森林づくり推進支援金 162 ㎥）

事　業　効　果

（１）事業実施の効果

松くい虫被害拡大の防止が図られる。

（２）継続性

継続して松くい虫防除事業を行うことにより、急激な被害拡大を抑制できる。

（３）普及性

区の要望に基づき被害木の伐倒・くん蒸を行うことで、地域住民に事業効果を実感してもらえる。

事業の検証及び評価

（１）目標に対する成果の状況

現地調査の結果、当初計画よりも被害木が確認できたため、被害の拡大を防ぐため事業量を 125 ㎥から 162 ㎥に増やした。

（２）課題

事業の実施により、急激な被害拡大は抑制されているが、未被害地域への被害拡大を防ぐため、今後も事業の実施が必要である。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

事業内容（４）事業目標及び当年度事業量①全体計画に基づき、来年度以降も引続き事業を実施していく。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小海町

No.	事　業　項　目	事　　業　　名
1	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	緩衝帯整備事業
事　業　費　　973,500　　円　（うち支援金：　890,000　　円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

町内人工林の大部分はカラマツであり、伐期を迎えつつある。

手入れがなされていない山林が多く、ニホンジカなどの格好の住処となっている。

ニホンジカなど有害鳥獣の駆除を進めているが、未だ農林業被害の発生は続いている。

（２）本事業の目的

耕作農地周辺の立木を伐採し、緩衝帯を整備することで、有害鳥獣による農林業被害を抑止する。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　小海町大字小海　宿渡地区

（２）対象者　　宿渡地区住民

（３）実施方法　伐採

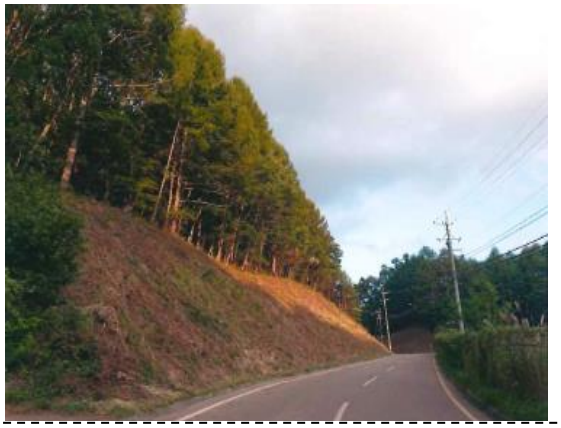
（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）

2.5ha 緩衝帯整備

②令和２年度実績

L=190m 緩衝帯整備



事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

緩衝帯の整備により住宅地、道路への有害鳥獣の侵入、農林業被害を抑止できる。

（２）継続性

本事業による緩衝帯の整備後、継続的に草刈等を実施することにより緩衝帯機能の維持を図る。併せて周辺地域の緩衝帯整備を進めていく。

（３）普及性

緩衝帯整備により明らかに有害鳥獣の侵入が抑止されるものと考えられるため、他地域での導入が図られる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

緩衝帯の整備によりニホンジカの目撃情報が少なくなったため、交通事故発生の予防が図られた。

本年度事業目標（L=190m）は達成されたので、引き続き全体計画（平成 30～令和 4 年度）2.5ha 緩衝帯整備を進めていく。

（２）課題

緩衝帯の整備は樹木の成長により年々その効果が薄れていくため、地域住民の協力を得ることにより効果の維持に努める必要がある。

（３）今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

引き続き、全体計画（平成 30～令和 4 年度）2.5ha 緩衝帯整備の整備を進め、住宅地等への有害鳥獣の侵入を抑止していく。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	佐久穂町

No.	事　業　項　目	事　　業　　名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫被害枯損木発見等立木調査業務
事　業　費　　990,000 円　（うち支援金：　　900,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫の被害は年々拡大しており、佐久穂町も被害地域内に位置している。

このまま被害が拡大すると、佐久穂町以南のマツタケ産地である小海町や北相木村、南相木村にも被害が及ぶ可能性が高い。

（２）本事業の目的

被害木を早期発見し、伐倒駆除等の効果的な総合防除を行い、拡大する被害を防止し、守るべき松林を守ることを目的とする。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　　佐久穂町内全域

（２）対象者　　佐久穂町民

（３）実施方法

被害木早期発見のための調査を林業業者へ委託し、実施した。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）

佐久穂町内全域の被害木発見等立木調査を毎年度実施する。

②令和２年度実績　　佐久穂町内全域の被害木発見等立木調査を実施した。

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

被害木の早期発見により、佐久穂町内へ拡大する被害を防止するとともに、近隣市町村への拡大を防止することができた。

（２）継続性

被害木の調査により、早期発見し、被害拡大を防止するとともに、佐久穂町内の被害状況や拡大状況を把握することで今後も早期の対応をしていく。

（３）普及性

被害木を調査し、所有者にお知らせすることで松くい虫被害について知ってもらい、防除の必要性や環境への影響､松林の適切な管理の重要性を知ることで被害防止の一助を担ってもらうことができる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

被害木の調査により、被害木を早期発見することで伐倒駆除につなげることができた。また、佐久穂町内の被害状況や拡大状況を把握することができ、今後の対応につなげていく。

（２）課題

松くい虫の被害は年々拡大傾向にあるため、早期発見による伐倒駆除が必要となる。そのため今後も調査業務を行い、松くい虫被害の拡大防止を図っていく必要がある。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

実施場所　　佐久穂町内全域

実施方法　　佐久穂町内全域の被害木発見等立木調査を実施する。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	佐久穂町

No.	事　業　項　目	事　　業　　名
2	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫被害防除対策業務
事　業　費　　434,500　円　（うち支援金：　　218,000　円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫の被害は年々拡大しており、佐久穂町も被害地域内に位置している。

このまま被害が拡大すると、佐久穂町以南のマツタケ産地である小海町や北相木村、南相木村にも被害が及ぶ可能性が高い。

（２）本事業の目的

被害木も早期発見し、伐倒駆除等の効果的な総合防除を行い、拡大する被害を防止し、守るべき松林を守ることを目的とする。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　　佐久穂町内全域

（２）対象者　　佐久穂町民

（３）実施方法

県が交付する補助金等の交付対象事業（松林健全化推進化事業等）の対象外となる被害木の伐倒駆除を林業事業者へ委託し、実施した。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）

県の補助金交付対象外の箇所において伐倒駆除を実施予定。

②令和２年度実績　　伐倒数 14 本（14 ㎥）

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

被害木の伐倒駆除により、佐久穂町内へ拡大する被害を防止するとともに、近隣市町村への拡大を防止することができた。

（２）継続性

集団的かつ継続的に発生している松くい虫被害に対して、被害木の伐倒駆除を継続することにより、拡大する被害を最小限に抑え、維持することができた。

（３）普及性

被害木は松林の中では目立つものであり、伐倒駆除により事業実施の効果を知らせることができる。また、所有者へお知らせをすることで松くい虫被害について知ってもらい、防除の必要性や環境への影響、松林の適切な管理の重要性を知ることで被害防止の一助を担ってもらうことができる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

これまでは県が交付する補助金等の交付対象事業の対象となる被害木のみの伐倒駆除を行っていたが、本事業により県の補助金交付対象外となる被害木についても伐倒駆除を行うことができた。それにより被害拡大防止に向けて、より一層の効果を発揮することができた。

（２）課題

松くい虫被害は年々拡大傾向にあるため、今後も被害木の増加が懸念される。引き続き伐倒駆除により被害拡大防止を図っていく必要がある。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

事業実施見込み：伐倒数 20 本

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	川上村

№.	事　業　項　目	事　　業　　名
1	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事　業　費　　935,000　円　（うち支援金：935,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

・村内には手入れが遅れている森林が数多くあります。

・集落内や小学校付近（小学校や通学路付近）にクマが出没し、住民生活に不安を与えています。

（２）本事業の目的

・集落や公共施設に面している森林の藪を整備することで、熊の出没を抑制し人的被害の防止を図ります。

・藪化・過密化している森林の藪払い・間伐を実施して、林内環境の改善や景観の向上を図ります。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）　実施場所　位置図のとおり

（２）対象者　　川上村民

（３）実施方法　緩衝帯整備事業を林業事業体に委託した。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30 年～令和 4 年度）

・1.1ha(H30 0.14、R1 0.20、R2 0.36、R3 0.20、R4 0.20)

②令和２年度実績　0.36ha

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

・熊の出没が抑制され、住民不安の軽減に寄与した。

（２）継続性

・手遅れ林分が集落内に多く点在しているため、継続的に緩衝帯整備を実施する。

（３）普及性

・クマの出没状況、目撃情報の有無を把握し、住民に情報提供した。

・農地や集落への出没対策として、地域ぐるみの対策を推進した。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

・クマ等野生動物の出没が抑制され、住民不安の軽減を図ることができた。

（２）課題

・整備した林分について、維持していくには費用や労力が必要。

（３）今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

・住民生活の向上を図るため、計画的に手遅れの林を整備していきます。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	川上村

No.	事　業　項　目	事　　業　　名
2	森林を支える豊かな地域づくり	カラマツ木育事業
事　業　費　　221,770　円　（うち支援金：142,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

・カラマツを中心とした 50 年以上の人工林は成熟期を迎え、伐って利用する時期となっている。そのため、よりカラマツ材の利用促進を図る取組が必要です。

・林業生産活動の停滞による林業従事者の減少により、森林の保全、木材の安定供給に影響を及ぼす懸念があります。

（２）本事業の目的

・児童に対して、カラマツ材利用の大切さや村の産業を支えた林業、木材に興味をもってもらうための体験学習の場を設ける。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　別添　令和２年度川上村木育事業実績表のとおり

（２）対象者　　別添　令和２年度川上村木育事業実績表のとおり

（３）実施方法　別添　令和２年度川上村木育事業実績表のとおり

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

・しいたけの植菌、カラマツの苗作り、カラマツ等の間伐体験、カラマツの椅子作りを毎年実施する。

②令和 2 年度実績

・カラマツ等の間伐体験、カラマツ等の椅子作り

１．カラマツの椅子づくり体験

２．カラマツの間伐体験

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

・児童が森林や木に触れ合う場が増え、森林や木に対する親しみや理解が深まった。

・カラマツ材の良さや利用する大切さを学ぶことができた。

（２）継続性

・森林の保全や利用促進のために、より多くの児童に対して、木育事業を実施します。

（３）普及性

・カラマツ苗を２年間育苗し村有林へ植樹した。

・カラマツ材を利用して椅子を作成、使用した。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

・児童がテーマ毎の木育事業を体験した。

・当村の森林の歴史や現状について理解を深めることができた。

・カラマツ材の良さ、利用する大切さを学ぶことができた。

（２）課題

・中学生を対象とした林業教育の充実を図る必要がある。

（３）今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

・今後も目的達成のために、引続き小学生を対象とした木育事業を実施する。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	南牧村

№.	事　業　項　目	事　　業　　名
	森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	緩衝帯整備事業
事　業　費　　5,000,000　円　（うち支援金：　701,000　円）		

事　業　目　的

（１）地域の森林・林業の現状と課題

南牧村内では民有林が多く、カラマツが多くを占めている。カラマツの価格低迷などにより林業への関心が薄れているため、手が施されていない森林が多く残っている。そのため、道路沿線に木が鬱蒼としており、鹿等の飛び出し事故が多発している。

（２）本事業の目的

緩衝帯整備を行い、鹿等が道路に飛び出ししにくい環境づくりを行う。

事　業　内　容

(1) 実施場所

南牧村　大字　海ノ口・広瀬　県道梓山海ノ口線

(2) 対象者

民有林所有者

(3) 実施方法

道路沿線の木の伐採を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成３０年度～令和４年度）

村道海尻芦平線　沿線（L=590m）

県道梓山海ノ口線　沿線（L=1,800m）

村道野辺山平沢線　沿線（L=1,270m）

②令和２年度計画

県道梓山海ノ口線　伐採延長 L=700m

事　業　効　果

（1）事業実施による効果

道路沿線の緩衝帯整備を行う事により、運転手からは見通しがよく、しかも緩衝帯があることにより、飛び出しにくくなる。

（2）継続性

樹木を伐採すれば、後年は比較的軽微な草刈り作業のみで、継続的に緩衝帯を維持することができる。

（3）普及性

緩衝帯を整備することで、地域住民が運転しやすく鳥獣等との事故を抑制できる。

事業の検証及び評価

（１）目標に対する成果の状況

道路沿線の伐採によって、とても見通しのいい道路となった。観光客も通る主要幹線道路であるので、費用対効果はとしても高いものであった。

（２）課題

伐採後、崖下が見えるため少し怖いという意見もあったので、今後の検討事項。

所有の樹木を伐採してほしくないという所有者もいたため、路線内に樹木が残ってしまう場所ができてしまった。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

同路線を引き続き今年度と同様の緩衝帯整備を行い、見通しのいい道路としていく。

□事業内容を見直して継続する

□事業を継続しない

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	南相木村

No.	事　業　項　目	事　　業　　名
1	木を活かした力強い産業づくり	木資源活用推進事業
事　業　費　　660,000　円　（うち支援金：　　535,000　円）		

事　業　目　的

（１）地域の森林・林業の現状と課題

本村の人工林は、偏った齢級構成のまま成熟期を迎え、計画的な更新により森林資源の持続的安定供給が可能な森林造成と森林資源の有効活用が課題となっている。

（２）本事業の目的

昨年度は村産カラマツを使用した村営住宅を建設し構造見学会の実施や県産材を使用した木製品を公共施設に設置して県産材の活用普及を図ってきた。

今年度も同様に県産材を使用した木製品を公共施設に設置し、県産材の更なる活用普及を図ることを目的とする。

事　業　内　容

（１）実施場所　　村内公共施設

（２）対象者　　地域住民及び来村観光客

（３）実施方法　　県産材を使用した木製ベンチ等を地域住民や来村者が利用する公共施設に設置し、解説パネル等で普及啓発を図る。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30　～　令和４年度）

県産材で製作した木製品設置　20 基

②令和元年度実績

立原高原野外施設　　木製ベンチ１基、学校前施設２基、川又不戦の像３基設置

不戦の像

学校前

立原高原野外施設

森林税利用周知

事　業　効　果

（１）事業実施による効果

木質製品を設置し、利用していただくことで地域住民や来村者が木質製品に親しむことができ、村産材を活用した製品の需要の創出が期待できる。

（２）継続性

村内公共施設に木質製品を増やすことで、村内で木を使うことが常用的となり、更に木質製品の波及効果が期待できる。これにより村内での木材需要の拡大につなげて行く。

（３）普及性

地域住民や来村者が多く利用する村内公共施設を木質化することで、多くの方が実際に木製品に触れ、解説パネル等を通じて事業について知ることができる。

事業評価と今後の取組

（１）　目標に対する成果の状況

平成 30 年度から令和 4 年度の全体計画は木製品の設置 20 基で、このうち平成 30 年度に 6 基、令和元年度 6 基、本年度 6 基の計 18 基の木製ベンチを設置した。本年度は、立原高原森林総合施設を含む村内主要な場所に設置したことで、今後多くの方が利用し、普及効果が期待できる。

（２）　課題

木製ベンチやテーブルの設置は、利用者に対し一定の普及効果があるが、設置場所や経済的に限られた方しか設置できないと思われる。今後、一般的な家庭が訪れ、実際に触れて楽しみ、それが手軽に入手できるような木製品の設置を検討する。

（３）今後の取組方向

□事業を現行どおり継続する。

☑事業内容を見直して継続する

木製ベンチ設置は目標をほぼ達成したので、別の関係事業、製品等について検討する。

□事業を継続しない

（別記様式第 15 号）

令和　2　年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	北相木村

No.	事　業　項　目	事　　業　　名
1	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業　（木製コサージュ等制作）
事　業　費		124,300 円　（うち支援金：118,000 円）

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

（２）本事業の目的

（(1) の課題への対応方向について記載）

卒業生に木工製品から木や自然を身近に感じてもらい、北相木の森林・林業に興味を持ってもらうこ

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　北相木小学校　他

（２）対象者　卒業生　他

（３）実施方法

・木材の鉋屑を利用した木製コサージュを卒業生に身に着けてもらう。

・卒業式等のイベントにて、キノハナを飾り、木の香りや木の魅力を感じてもらう。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（令和元年度～令和 4 年度）

木製品の活用方法の拡大

②令和 2 年度実績

木製コサージュ：11 個

木製オブジェ（祭壇用）：1 式

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

・木製品にふれあうことにより、子供たちの木材・林業への関心を高める。また、枯れることはないのでいつでも北相木小学校･保育園で体験した林業体験を思い出してもらいたい。

（２）継続性

・地元産カラマツを利用することにより、木製品としての価値を再認識してもらう。

・木材の新たな利用方法として認知してもらい、利用方法の拡大を図る。

（３）普及性

・卒業生の大半が県外でもあり、県内外に北相木産カラマツや木材の利用方法拡大、ＰＲを実施できる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

・コサージュから漂う木の香りや、木によって違う花の色を見て、木に興味を持ってもらえた。また、林業体験や木工体験の記憶を思い出してもらえた。

・木製オブジェが目を引くモニュメントとなり、式典に華を添えられる。また、式典への参加者等に木の香りや木の魅力を PR 出来た。

（２）課題

・小学生へのカラマツ製品の認知度は高まってきているが、村民への認知度が今一つ感じられず、今後の取り組みの課題である。

・木製オブジェを、村内外に PR してイベントや式典での展示機会を増やして、木の魅力の PR に繋げていきたい。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

・毎年、卒業生へのプレゼントにしていくことを検討したい。また、ワークショップなどを通して、木との触れ合える機会を増やしていきたい。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

（別記様式第 15 号）

令和　2　年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	北相木村

No.	事　業　項　目	事　　業　　名
2	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業(博物館カラマツテーブル　制作)
事　業　費	352,000 円　（うち支援金：230,000 円）	

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（（１）地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

（２）本事業の目的

（(1) の課題への対応方向について記載）

北相木産カラマツを活用して製作することにより、地元産材を効果的に活用するとともに、地元産材の魅力を県内外にアピールする。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　北相木村　考古学博物館

（２）対象者　来場者及び村民

（３）実施方法

北相木産カラマツを使用したテーブルを制作し配置する。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

木製備品の設置

②令和 2 年度実績

博物館カラマツテーブル：2 台

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

・木製品にふれあうことにより、村内外の来場者に木材・林業への関心が高められた。

（２）継続性

・木製品の良さを認識してもらい、将来的には公共施設の木質化を進めていきたい。さらには、一般家庭への木質化の普及に取り組んでいきたい。

（３）普及性

・公共施設の木質化を進めることで、木材に見たり、触れたりする機会が増え、木の魅力発信に繋がっている。また、施設内が木質化されることにより雰囲気も良くなる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

・設置後、すぐに来場者が興味を示し木製品への関心の高さがうかがえた。

・施設内の木質化が進んだことにより雰囲気が良くなった（今までは合板テーブル使用）。

（２）課題

・村民のカラマツに対する悪いイメージの克服が、今後の取り組みの課題である。

・設置したカラマツ家具等を見てもらい悪いイメージを改善していきたい。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

公共施設への普及を図っていきたい。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

（別記様式第 15 号）

令和　2　年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	北相木村

No.	事　業　項　目	事　　業　　名
3	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業(木製パーテーション制作)
事　業　費		176,000 円　（うち支援金：170,000 円）

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

（２）本事業の目的

（(1) の課題への対応方向について記載）

公共施設(役場等)に配置することにより木の質感や良さを体感すると同時に、森林の多面的な

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　役場　他

（２）対象者　施設利用者　他

（３）実施方法

・北相木産カラマツを使用した木製パーテーションを制作し配置する。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

木製備品の設置

②令和 2 年度実績

木製パーテーション　2 台

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

・木製品にふれあうことにより、村民への木材・林業への関心を高める。

（２）継続性

・木製品の良さを認識していくことにより、将来的に施設の木質化を図りたい。

（３）普及性

・役場には村民や県内外者が訪れるため、北相木産カラマツのＰＲには適しており、今後の木材利用の推進につながる可能性がある。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

・設置後、すぐに児童たちが興味を示し木製品への関心の高さがうかがえた。

・診療所に設置したことにより、村内の高齢者に PR 出来た。

（２）課題

・村民のカラマツに対する悪いイメージの克服が、今後の取り組みの課題である。

・設置したカラマツ家具等を見てもらい悪いイメージを改善していきたい。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

公共施設への普及を図っていきたい。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	軽井沢町

№.	事　業　項　目	事　　業　　名
１	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事　業　費	１，０９１，２００円　（うち支援金：９０５，０００円）	

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

住宅地の周辺を囲む民間の森林（別荘地）は適切な管理がされていない箇所があり、藪の深い場所では野生動物が潜み易い環境となっている。

（２）本事業の目的

野生動物の被害防止のため緩衝帯整備として森林整備を行う。見通しの良い環境を整備することで、住居エリアへの侵入を防ぎ、野生動物の潜み易い場所を解消することが出来る。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　　軽井沢町内（千ヶ滝中区、離山地区）

（２）対象者　　軽井沢住民（千ヶ滝中区、離山地区）

（３）実施方法　　草刈り機使用（藪刈り、刈り倒し）面積　１１，０００㎡

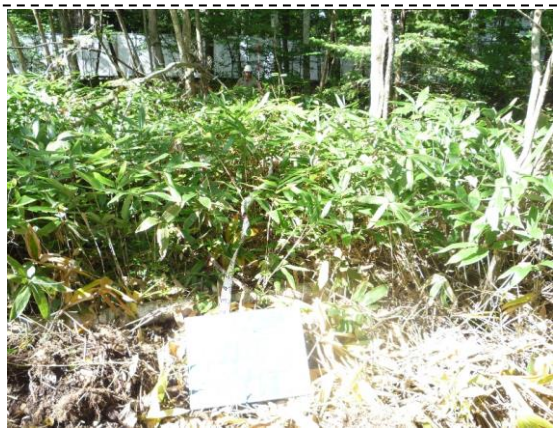
道路より奥行１０ｍ以内の範囲

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成３０年～令和４年度）

平成３０年度（大日向地区）	11,500 ㎡
令和元年度（古宿地区）	11,000 ㎡
令和２年度（千ヶ滝中区、離山区）	11,000 ㎡
令和３年度（上発地区）	12,000 ㎡
令和４年度（馬取区）	13,000 ㎡

②令和２年度実績　　軽井沢町内（千ヶ滝中区、離山地区）11,000 ㎡



事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

緩衝帯整備事業の刈り払いを実施することで住居エリアへの侵入を防ぎ、野生動物の潜み易い場所を解消することが出来る。

（２）継続性

住宅エリアへの野生動物の侵入を予防するため、今後も計画的に進めていく。

（３）普及性

藪刈り実施の承諾を所有者から得ることにより、藪を放置すると野生動物が潜む可能性があることを啓発出来る。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

民有地の藪刈りを実施することで住居エリアへの侵入を防ぎ、野生動物の潜み易い場所を解消することが出来た。

（２）課題

民有地の藪刈りの承諾を所有者から受けられない場合は、実施が出来ないため課題である。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

住居エリアへ野生動物の侵入を防ぐため、対象となる地区について藪刈りを計画的に実施していく。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	御代田町

No.	事　業　項　目	事　　業　　名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	御代田町松くい虫被害防除対策事業
事　業　費	795,300 円　（うち支援金：691,000 円）	

事　業　目　的

（１）地域の森林・林業の現状と課題

平成 21 年度から町内においてマツ材線虫病（以下「松くい虫」という。）による赤松の立ち枯れの被害が拡がっている。

（２）本事業の目的

松くい虫被害木の伐倒駆除を実施し、被害拡大の抑制に努める。

事　業　内　容

（１）実施場所：町内全域

（２）対象者　：保護森林

（３）実施方法：松くい虫被害木の伐倒駆除

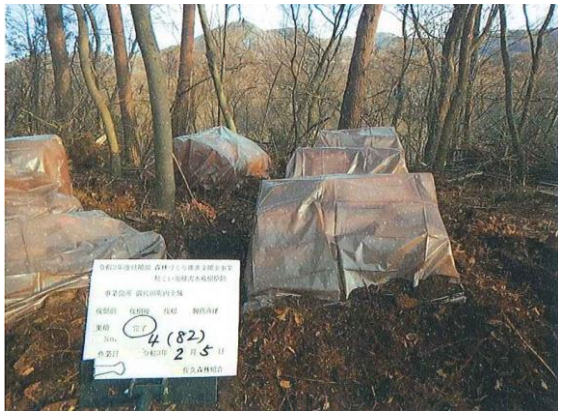
（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

40m3×５か年＝200m3

②令和２年度実績

21m3



事　業　効　果

（１）事業実施の効果

松くい虫被害拡大の抑制。

（２）継続性

松くい虫対策を行うことで、倒木による二次被害から住まいや農地を守ることができる。

（３）普及性

松林の美しい景観を保持することができる。

事業の検証及び評価

（１）目標に対する成果の状況

松くい虫被害木の伐倒駆除により被害拡大の抑制につながり、道路から見える赤松林の景観形成ができた。

（２）課題

松くい虫による被害の最先端地域として軽井沢町へ被害が拡がらないよう対応しているが、被害木は毎年発生しているため、今後も伐倒駆除が必要である。また、被害が拡大するようであれば他の補助事業も含めた防除事業全体を見直し、樹種転換、樹幹注入、空中散布等も検討していく。

（３）今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

来年度以降も継続して実施していく。

□事業内容を見直して継続する

□事業を継続しない

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	立科町

№.	事　業　項　目	事　　業　　名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	立科町松くい虫防除伐採補助金
事　業　費　598,000　円　（うち支援金：598,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

立科町の里地区の森林はアカマツ林が多く、松くい虫被害を受け、個人所有者は大変苦慮しているところである。

また、山林に隣接している、墓地などへ被害が拡大している。

（２）本事業の目的

山林以外等のアカマツが松くい虫の被害に遭っていることで、被害木の倒木による二次被害を防止するため。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　　立科町内一円

（２）対象者　　立科町に土地を所有している者

（３）実施方法　　被害木の伐倒・くん蒸及び焼却

（４）事業目標及び当年度事業量

被害のまん延防止のため、適切に伐倒を行った。　アカマツ：48 本

①　全体計画（平成 30～令和 4 年度）

年度	H30	R1	R2	R3	R4
事業量	44 本	32 本	48 本	45 本	45 本
支援金	749 千円	471 千円	598 千円	772 千円	772 千円

②　令和 2 年度実績

アカマツ 48 本を伐倒・くん蒸及び焼却

（写　　真）
別紙のとおり

（写　　真）
別紙のとおり

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

松くい虫被害のまん延防止対策として、適切に枯損木を処理することで、被害を未然に防ぐ。

（２）継続性

松くい虫による枯損木は年々増加している状況で、山林以外のアカマツへも被害が拡大していることから、将来にわたり、事業を推進していきたい。

（３）普及性

国庫補助対象とならない、山林以外等の松くい虫被害木の伐倒・くん蒸処理を行うことにより、住民の目に付きやすく、松くい虫被害防除対策への理解が得られる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

広報誌で住民に周知した結果、処理本数が目標に達成した。また、補助金を活用し処理をしようという意識が生まれ、被害の蔓延防止につながる結果となった。

（２）課題

市町村境の山林を中心に松くい被害が拡大し、里内でも松くい虫による被害が見受けれるが、里内での倒木はその隣地等へ、物理的な被害を生む可能性が考えられる。

また、町外在住で当町に所有地のある方からの申請も数件見受けられ、駆除本数も多い。

町外在住者における土地管理は深刻な問題であり、補助金を活用し管理意識を高める目的でも、補助金事業を広く周知する必要がある。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

年度	R2	R3	R4
事業量	48 本	45 本	45 本
支援金	598 千円	772 千円	772 千円

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

工事名
場所
茂田井 カワイチ線
No. B79
着工前

工事名
場所
茂田井 カワイチ線
No. B79
竣工

工事名
場所
茂田井 カワイチ線
No. B79

（別記様式第 15 号）

令和２年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	立科町

№.	事　業　項　目	事　　業　　名
2	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	県産間伐材を用いたベンチの設置事業
事　業　費　176,000　円　（うち支援金：153,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業も現状と課題

立科町では、林業の低迷等から森林への関心が薄れている。

このことから、当町では林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立を図ることを目標としております。

（２）本事業の目的

県産間伐材を使用している旨を印したベンチを設置することで、森林税や間伐材などの身近な林業への関心を高める。

事　業　内　容

（１）実施場所

立科町陣内森林公園

（２）対象者

町民及び観光客

（３）実施方法

県産間伐材をベンチに加工し、県産材の PR を行う。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画　（平成 30 年～令和 4 年）

県産間伐材使ベンチ 2 基設置

②令和２年度実績

県産間伐材使用ベンチ 2 基設置

（写　　真）

別紙のとおり

（写　　真）

別紙のとおり

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施による効果

県産間伐材利用の促進。森林税活用の PR 効果。林業の活性化。

（２）継続性

効果の普及拡大のため、各観光地からの要望に基づき、今後も各所へベンチを設置することを検討する。

（３）普及性

立科町各所にある観光地に、県産間伐材使用のベンチを設置することにより、住民や観光客への県産材や森林税の活用について、PR することができる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

森林公園の繁盛期には、釣り堀や食事処の利用者への PR 効果が大きい。

（２）課題

木製品ベンチであることから、腐敗等による事故発生を防ぐため、森林公園の施設管理者による定期的な点検を行う。

（３）今後の取組方向

□事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

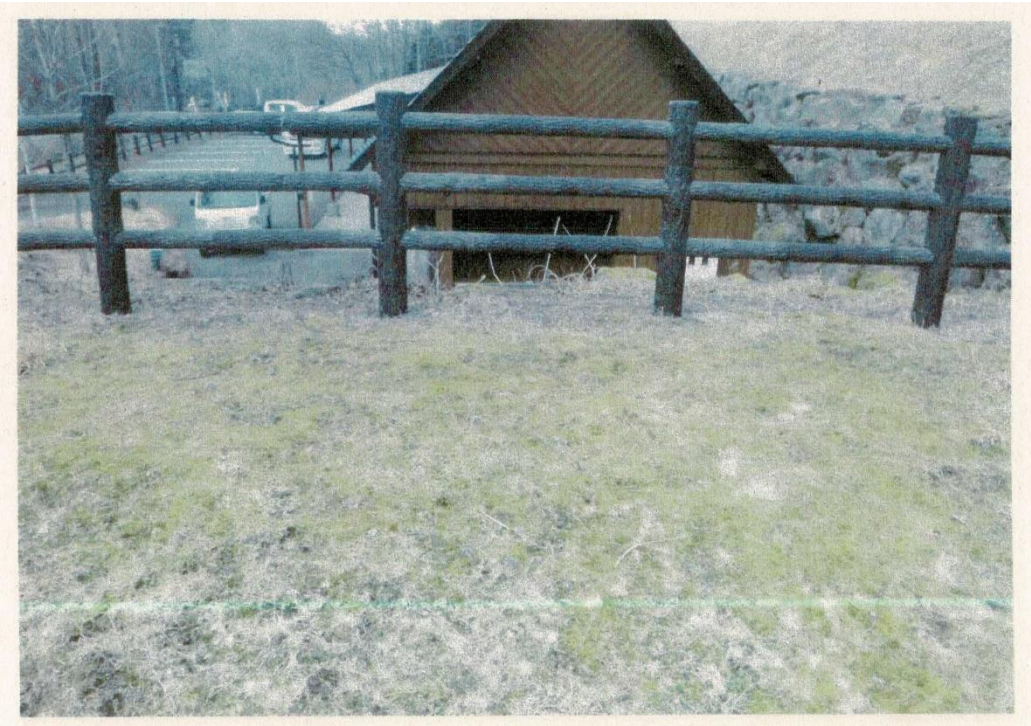
□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

☑事業を継続しない

計画していたベンチ設置（2 基）が完了し、他に要望等がないため。

設置前



設置後